

記録する眼

豊穣の時代

明治の画家 亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々

出品作家

亀井至一（1843～1905）、
亀井竹二郎（1857頃～1879）
横山松三郎、蛭川式胤、五姓田芳柳、
五姓田義松、高橋由一、山本芳翠、
渡辺幽香、渡辺文三郎、
中丸精十郎、本多錦吉郎 ほか

亀井至一（1843～1905）と弟の竹二郎（1857頃～1879）は、

ともに写真家・画家として知られる

横山松三郎のもとで洋画を学び、

版画工房・玄々堂で活動しました。

竹二郎は、文化財保護の先駆者であった蛭川式胤の支援を受けて

東海道の53の宿場を油彩画で描くスケッチ旅行ののち、

明治12年23歳と伝わる若さで没します。

この油彩画連作は明治24年から25年にかけて

石版画として出版されました。

元々浮世絵系の版元と関係のあった兄の至一は、

その後自ら版元として石版画を出版。

いわゆる額絵と呼ばれる大判の石版画が大きく発展した

明治半ば、その中心的な作家のひとりとなりました。

こうした亀井兄弟周辺には、横山や蛭川のほかに

玄々堂に出入りした画家や文化人、

その後の印刷業界に関係した人々など多彩な顔ぶれが並びます。

本展では、亀井兄弟と周辺の人々との関わりに焦点をあて、

これまで見落とされがちであった諸相を検証します。

第2章 玄々堂と亀井兄弟

幕末の京都での創業以来、銅版画を主に制作していた玄々堂は、東京へ移って石版画や洋画等教授も看板に掲げました。この章では、至一、竹二郎兄弟が在籍した明治10年頃、玄々堂に関係した画家について、彼らの石版画作品を中心に紹介します。また、額絵の名手として知られた亀井至一の石版画作品を本の挿絵まで一堂に展示します。



亀井至一（石版画）〈明治十年三月三十一日車駕臨御大坂陸軍臨時病院親自吊慰之図也〉黒船館蔵



亀井至一（画）〈東京芸妓松子〉神戸市立博物館蔵 ※後期展示



亀井至一（出版人）〈東京深川芸妓於松〉個人蔵



亀井至一（石版画）〈観古図説 陶器之部三〉より 郡山市立美術館蔵



亀井至一（石版画）〈観古図説 陶器之部四〉より 郡山市立美術館蔵

第1章 師・横山松三郎と画家・亀井至一

亀井至一の作品を兄弟の師である横山松三郎の仕事とともに紹介します。松三郎の江戸城記録写真や写真油絵のほか、新発見の油彩画などによって、至一が松三郎に学んだ油彩技法や描写などを探ります。亀井至一の油彩画、水彩画、また日光を主題とした木版画作品を、印刷りや下絵とともに紹介します。さらに版元・松木平吉や小林清親など周辺人物について見ていきます。



亀井至一 旧江戸城スケッチ



高橋由一〈旧江戸城之図〉東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives



横山松三郎〈旧江戸城写真帖第二九図 ニノ丸翼三重櫓・東三重櫓・三ノ丸喰道門〉東京国立博物館蔵 ※会期中に展示替えがあります



亀井至一〈富士の景〉桑折可種徳美術館蔵



亀井至一〈女学生〉東京国立博物館蔵 Image: TNM Image Archives ※前期展示



本多錦吉郎〈羽衣天女〉（部分）兵庫県立美術館蔵

第3章 夭折の画家・亀井竹二郎

亀井竹二郎が亡くなったとき、兄の至一ばかりでなく周囲もその才能を惜しんだと伝わっています。中でも東海道作品の制作を依頼した蛭川式胤は、京都の自宅で母の肖像を描かせるなど、大きな期待を寄せていたことがうかがわれます。この章では、蛭川旧

蔵作品、東海道油彩連作など竹二郎の作品とともに、同時代、玄々堂に係った作家たちの油彩画作品をあわせて展示します。記録する眼が生んだ深い洞察による豊かな表現や、ちよつと古めかしくも懐かしい風景・時空を超えた旅をお楽しみください。



亀井竹二郎〈鎌倉 自渡口望荒井（鎌倉東海道五十三駅真景）油彩原画のうち〉郡山市立美術館蔵



亀井竹二郎〈島田驛（鎌倉東海道五十三駅真景）油彩原画のうち〉郡山市立美術館蔵



亀井竹二郎〈戸塚驛（鎌倉東海道五十三駅真景）油彩原画のうち〉郡山市立美術館蔵



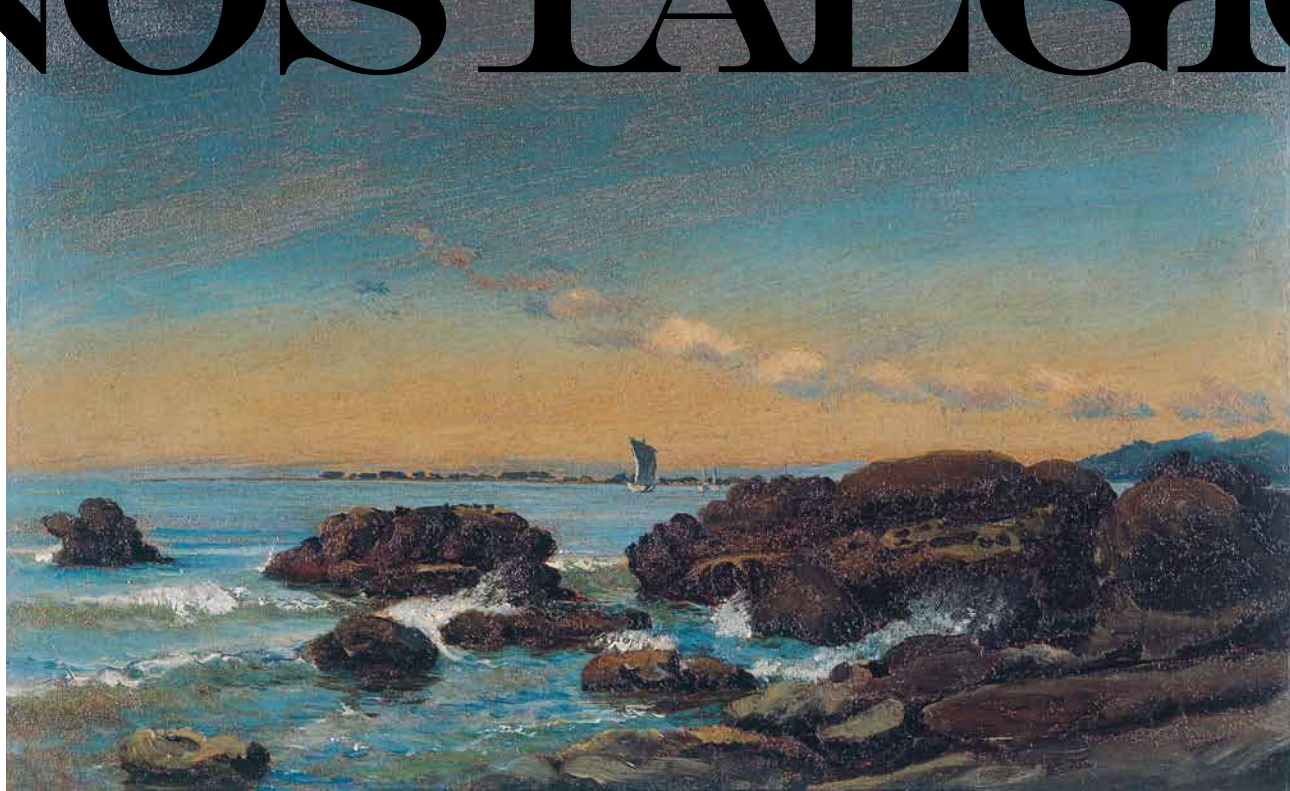
亀井竹二郎〈吉原驛 晩霞望富士山（鎌倉東海道五十三駅真景）油彩原画のうち〉郡山市立美術館蔵



高橋由一〈甲冑図〉靖国神社遊就館蔵



ノスタルジック



亀井家伝来資料

亀井至一遺族からご寄贈いただいたスケッチブック、油彩・水彩等の素描類、木版画など(約200点)。日光をはじめ旅先でのスケッチ、上野不忍池などの身近な風景、画家の関心、修練のあとがうかがわれる貴重な資料。



明治の画家亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々

記録する眼 豊穣の時代

郡山市立美術館開館30周年記念展1



講演会

事前
申込制

記録する眼と表現する手の間で —エイジェント論を手がかりとして—

日時◎2022年11月20日(日) 14:00～

講師◎小泉晋弥氏(茨城大学名誉教授)

場所◎多目的スタジオ

定員◎70名(入場無料)



寄席

事前
申込制

幕末明治の見世物寄席

日時◎2022年11月23日(水・祝) 14:00～

場所◎多目的スタジオ 定員◎70名(入場無料)

- 落語「がまの油」／林家彦三
●落語「一眠国」／林家正雀
●音楽パフォーマンス／のだゆき
●落語「樟脳玉」／林家正雀



応募締切上記いずれも◎2022年11月9日(水)※必着

シンポジウム

事前
申込制

「記録する眼 豊穣の時代」展開催記念&開館30周年記念 展覧会ができるまで ～亀井兄弟の足跡を辿って～

日時◎2022年12月3日(土) 13:30～

増野恵子氏(早稲田大学講師)
パネリスト 角田拓朗氏(神奈川県立歴史博物館学芸員)
中山恵理(当館学芸員)

場所◎多目的スタジオ

定員◎70名(入場無料)



応募締切◎2022年11月19日(土)※必着

申し込み方法

次のいずれかの方法でお申し込みください。

- インターネット 各イベントのQRコードを読み込み、
応募フォームからお申込みください。
1枚につき1イベント、1名様まで
はがき ①イベント名 ②氏名 ③郵便番号
④住所 ⑤電話番号

をご記入の上、〒963-0666 郡山市安原町字大谷地130-2
「郡山市立美術館 宛」までお送りください。

美術講座

申込
不要

①『観古図説』を読む

日時◎2022年11月13日(日) 14:00～

②亀井至一と小林清親

日時◎2022年11月27日(日) 14:00～

③メディアとアートと石版画

日時◎2022年12月11日(日) 14:00～

④明治への旅

日時◎2022年12月18日(日) 14:00～

講師◎当館学芸員

場所◎多目的スタジオ

(入場無料)

ギャラリートーク

要観
覧券 申込
不要

日時◎2022年11月12日(土)、11月26日(土)、
12月10日(土)、12月17日(土)

時間◎各回とも14:00～/場所◎企画展示室

2022年11月3日(木)祝
⇒2023年1月9日(月)祝

開館時間◎午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで) 休館日◎毎週月曜日、年末年始(2022年12月28日～2023年1月4日)
観覧料◎一般1,000(800)円/高校・大学生・65歳以上700(560)円 中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料 ※()内は20名以上の団体料金
主催/郡山市立美術館 後援/明治美術学会 協力/神奈川県立歴史博物館 助成/令和4年度芸術文化振興基金
【前期】2022年11月3日(木・祝)～12月4日(日) 【後期】12月6日(火)～2023年1月9日(月・祝) ※会期中、一部展示替えおよび場面替えを行います。



郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2 Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350

<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

常設展 案内

開館30周年 郡山市立美術館名品選+
「旅をめぐるコレクションCollection×旅」
2023年1月9日(月・祝)まで

次回 企画展 案内

郡山市立美術館開館30周年記念展2
ヨハネ・パウロ2世美術館所蔵
カンヴァスの魅力的な女性たち(仮称)
2023年1月28日(土)～3月26日(日)

- ご来館の皆さまには新型コロナウイルス感染拡大防止のためのご協力をお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染拡大の状況により、掲載の展覧会が中止や延期となる場合がございます。関連イベント情報も含め、詳しくは当館ホームページ等でお知らせいたします。



バス◎JR郡山駅5番のりば
「郡山市美術館経由東部ニュータウン」行き
「郡山市美術館」下車すぐ
乗用車◎磐越道「郡山東IC」より20分【駐車場130台】

郡山市立美術館 Koriyama City Museum of Art

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地130-2
Tel.024-956-2200 Fax.024-956-2350
<https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/>

